福岡県の主な農産物の生産状況

令和５年６月 15 日現在
（専技情報より抜粋）

◇早期水稲（夢つくし、ｺｼﾋｶﾘ）◇

田植え後、多雨の影響により、草丈は平年よりやや高く、茎数は少ないです。
ウンカ類の発生は確認されていません。
４月下旬植えの穂肥施用時期は６月 30 日前後、出穂期は７月４半旬頃で、平年よりやや遅くなる見込みです。
中干しの強さは、田面が黒乾する程度とします。
穂肥は、出穂前 20～18 日頃（幼穂長 2～5㎜）に、葉色 3.5 程度を基準施肥量として施用しましょう。

◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ﾋﾉﾋｶﾘなど）◇

苗の生育は概ね順調です。
育苗期の不安定な天候により、一部で軟弱苗や病気の発生が見られます。
現在、麦収穫後のほ場でも田植えが始まり、平坦地の「夢つくし」は６月上中旬、「元気つくし」は６月中下旬、「ヒノヒカリ」は６月下旬が最盛期となる見込みです。
５月植えで雑草が多い場合には、中後期除草対策を実施しましょう。
大豆後は、基肥を減肥しましょう。
田植え後は浅水管理を徹底して、活着促進と初期生育の確保を図りましょう。
スクミリンゴガイ、ウンカ類対策を徹底しましょう。

◇麦類◇

麦の収穫はほぼ終了しました。
収量は前年より少ないが、平年よりやや多い見込みです。
収穫期の降雨により、一部で小麦の刈遅れがみられます。
品質は、風雨による倒伏や収穫期間の降雨により、一部で外観品質の低下が見られます。
麦わらは、すき込みにより有機物還元を図りましょう。
麦わらの分解促進のため、麦後に水稲を作付けする場合は、基肥を増肥しましょう。

◇イチゴ◇

４年度産の出荷は、５月下旬でほぼ終了です。

４番果房は、生育のバラつきが大きく、４月以降の出荷量は平年をやや下回りました。

総出荷量は前年よりやや減の 9,857t、平均単価は 1,590 円/kg、販売金額は前年並みの 156 億 8 千万円です。

親株からの子苗の発生は比較的順調で、採苗作業は５月中旬から開始しましょう。

採苗は、６月中旬までに実施し、充実した苗づくりを目指しましょう。

ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病などの発生が見られます。

炭疽病も含めての病害虫の対策を徹底しましょう。

◇アスパラガス◇

春芽の出荷量は、低温により保温開始を遅らせた産地もあり、例年より遅く３月中旬がピークです。

４～５月にかけて立茎が行われ、夏芽の出荷量は６月中～下旬にかけて増加する見込みです。

病害虫は、アザミウマ類、アブラムシ類等の発生が見られます。

過繁茂防止のため、適宜整枝、せん定を行いましょう。

斑点性病害は多湿により発生が多くなるため、十分に換気し、定期的に予防対策を行いましょう。

アザミウマ類等の対策を徹底しましょう。

◇ブドウ◇

加温栽培は、５月上旬から出荷開始しました。

燃油高騰により全体的に加温開始が遅れています。

結実良好で着果過多傾向のため、着色はやや遅れています。

トンネル・露地の開花期は平年より５日程度早いです。

結実は概ね良好です。

加温栽培でハダニの発生が目立ちます。

「シャインマスカット」未開花症の発生は見られません。

トンネル露地は、摘粒・摘房の徹底により、適正果房重・適正着果量を厳守し、品質維持を図りましょう。

梅雨期の病害虫対策（特にべと病）を徹底しましょう。

裂果防止のために排水対策とかん水を徹底し、土壌水分の変動を少なくします。

◇ナシ◇

露地「幸水」の開花盛期は３月 31 日頃、「豊水」は 3 月 28 日頃です。
平年より８～９日早く、結実、果実肥大は平年並です。
黒星病の発生が例年より多く、一部で収量に影響が出る見込みです。
今年出荷２年目となる「玉水」の結実は良好で、出荷量は８ｔの見込みです。
黒星病は満開後 60～85 日に果実の感受性が高まるため、予防対策を徹底しましょう。
着果量が多い園では、小玉、変形果を中心に早期に仕上げ摘果を行いましょう。

◇キウイフルーツ◇

「甘うぃ」の開花盛期は５月１日頃、「ヘイワード」は５月 16 日頃で、平年より２～５日程度早かったです。
結実は概ね良好です。
開花期間が長かったため、果実肥大のばらつきが大きいです。
５月上旬の強風、降雨により、かいよう病の症状が散見されます。
着果数が多いため摘果を徹底し、６月末までに、適正着果量に調整しましょう。
梅雨期の排水対策や果実軟腐病等の病害虫対策、梅雨明け後の土壌乾燥対策を徹底しましょう。

◇施設ギク◇

出荷量は、スプレーギクへの転換により減少傾向です。
一方、販売単価は前年並ですが 5 年平均比では 108％と高いです。
６月から「フローラル優香」「精の一世」等の夏秋ギク品種の出荷が本格化、品質は概ね良好です。
白さび病の発生は少ないが、ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られます。
７月から秋ギク（11～５月出荷）の採穂が始まります。
施設内の温度上昇による葉焼けを防止するため、水分管理や換気に注意しましょう。
秋ギクは、親株数を十分に確保し、予防散布を徹底して質の高い「挿し穂」を確保できるように留意しましょう。
また、ウイルス発病株の除去と、ハダニ類、アザミウマ類の対策を徹底しましょう。

◇茶◇
一番茶の出荷は５月末で終了しました。
二番茶の摘採のピークは、平坦地では６月７日頃でした。
山間地では６月 14～18 日頃の見込みです。
二番茶は、適期の摘採に努めましょう。
ハダニ類の発生が多いので対策を徹底しましょう。
平年に比べ曇雨天が多い予報なので、炭疽病の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇
牛枝肉価格は、内食需要の低迷と出荷量が前年同月より多いことから、和牛去勢及び省令価格ともに前年比、過去５年平均比どちらも下回りました。
６月の出荷頭数も全品種で増加の見込みです。
豚枝肉価格は、消費者の節約志向で牛肉から豚肉へ需要がシフトし、前年比、過去５年平均比ともに上回りました。
６月の出荷頭数は前年同時期をわずかに下回る見込みです。
鶏卵は、供給不足が続き、３カ月連続で 345 円／㎏の高単価です。
そのため、卵価は前年比、過去５年平均比どちらとも大幅に上回りました。
６月の生産量は引き続き低位で推移する見込みです。
梅雨入りし、寒暖差や日中の高湿度による暑熱ストレスが懸念されるため、換気扇・給水施設等の能力確認等、早めの暑熱対策と餌を十分に食い込める環境を整え、家畜の体調の変化に留意しましょう。
飼料価格の高止まりが続いており、良質な自給飼料の確保に努めるとともに給与ロスの少ない飼養管理を徹底しましょう。